

久我山稲荷神社 東京都杉並区久我山 3-37-14

疫病や伝染病の平癒を目的として江戸庶民が参拝した神社で、コレラ退散祈願の旗がたなびいていた。『新編武蔵風土記稿』によると新義真言宗久盛山弥勒院光明寺（明治時代に廃寺/中野宝仙寺の末寺）で明治40年（1907年）4月には字北原にあった天祖神社を合祀し昭和16年（1941年）に村社になった。夏祭りには杉並区では唯一の湯立て神事「湯の花神楽」が奉納される。これはかつてこの地に病気が蔓延した際に平癒を願った村人らの発願によるという。日清戦争の頃に一度中止されたが、その際赤痢が蔓延したので、すぐに再興され欠かさず続けられている。湯立て神事は盟神探湯に由来するとされている(境内説明版)。1703年建立の庚申塔は養蚕の円満なることを祈願したものと伝えられている。約120キログラムの力石も安置され病氣平癒祈願に基づいたものとされる。石狐は明治28年（1895年）に奉獻された。 御祭神は受持命



道路に一の鳥居が面している



朱の二の鳥居と奥に三の鳥居



本殿



本殿上部に龍の彫刻



片隅には獅子の彫刻



持上げると病気が治るらしい



社殿の前に一対の神狐像



一の鳥居近くにある庚申塔